

八王子市みどりの基本計画（素案）についてのパブリックコメント実施結果

1. パブリックコメントの実施概要

- ・実施期間：令和元年（2019年）12月15日（日）～令和2年（2020年）1月20日（月）
- ・周知方法：広報はちおうじ（令和元年12月15日号）、市ホームページ
- ・資料配布：市役所（環境保全課、市政資料室）、各事務所、各市民センター、各図書館、市HP
- ・提出方法：直接持込、郵送、ファックス、Eメール

2. 意見の概要

(1) 意見の提出状況

- ・提出者数：30名
- ・意見数：61件

(2) 意見の分類

分類	意見数
① 計画全般に関すること	2件
② 計画の記載方法に関すること	4件
③ 計画の目標に関すること	3件
④ 具体的な市の取組に関すること	42件
(1) 八王子駅南口集いの拠点整備に関すること	3件
(2) 公園に関すること	2件
(3) まちなか緑化事業に関すること	2件
(4) 里山に関すること	7件
(5) 河川に関すること	1件
(6) 森林に関すること	1件
(7) 環境教育に関すること	2件
(8) 人材育成に関すること	1件
(9) 情報発信・周知啓発に関すること	2件
(10) 協働・連携に関すること	5件
(11) みどりの活用に関すること	3件
(12) みどりの量の確保に関すること	6件
(13) 生物多様性に関すること	7件
⑤ 地域別の方針について	3件
⑥ その他	7件
合計	61件

(3) 意見への対応

パブリックコメントの意見を踏まえて検討した結果、本計画の基本となる部分の変更や大幅な内容変更は行いませんでした。ただし、一部の文章や文言などの修正を行いました。

結果については、関連所管と内容調整の後、2月末～3月上旬頃に市ホームページで公表予定です。

(4) 主な意見の概要と市の考え方（案）

① 計画全般に関すること

	意見の概要	市の考え方
1	八王子市は18河川のみどり、空間、景観が大切です。基本計画を進めていただきたい。	本計画では、みどりを自然的空間と捉え、河川や景観など複合的な要素を包括しています。今回のパブリックコメントのご意見を参考に、今後の計画推進に取り組む考えです。
2	コラムが良かった。市民との協働がわかり、参加してみたいと思った。	本計画の推進には、市民や事業者などの深い理解が必要と考えており、みどりについてより身近に感じてもらえるようコラムを記載しました。市民協働の取組は多様な活動が行われているため、本計画を通じて一層の市民協働に取り組む考えです。

② 計画の記載方法に関すること

	意見の概要	市の考え方
1	「陣場」と書いてあるところが数か所あったが、「陣馬」ではないか。	陣場の「ば」については、2種類の標記が存在します。街道や山（陣馬街道、陣馬山）には「馬」が使用されますが、自然公園の名称には「場」（都立高尾・陣場自然公園）が使用されています。本計画では、書き分けて記載しています。
2	P1.(2)3段落目の4行目「引き出す（=質の向上）ことは「引き出すこと（=質の向上）」が正しいと思う。	頂いたご意見のとおり修正しました。
3	P1.(2)4段落目の「市民・事業者・行政のそれぞれが共通した」は三者間での共通認識としたいのであれば、「それぞれ」は不要であると思う。	頂いたご意見のとおり修正しました。

③ 計画の目標に関すること

	意見の概要	市の考え方
1	目標に緑で覆われることのない水面などを含めたみどり率を用いることは妥当なのか。	本計画の「みどり」は、樹林地などの緑に覆われる箇所に加えて、みどりの様々な機能を考慮しているため、公園や水辺地など緑に覆われることのない空間も含めた「みどり」と定義しています。また、みどり率は東京都が都内全域で測定し、指標として利用しています。そのため都の施策との整合性や数値の比較などができるため、本市としても指標の一つとして採用しました。

④ 具体的な市の取組に関すること

八王子駅南口集いの拠点整備に関すること

	意見の概要	市の考え方
1	「八王子駅南口集いの拠点の整備」に多摩産材などの使用を検討するとあるが、多摩産材は、木を製材し、材木となったもの。材木は緑の葉もなく、二酸化炭素も吸収しないため、みどりの計画とは関係ありません。木を活用する意義はあると思いますが、みどりの計画とは別であるため、「施設には多摩産材などの使用を検討します」という言葉は削除したほうが良いと思う。	森林を保全し、適切な水源かん養機能などを発揮していくためには、木材の有効活用による森林の循環が必要です。多摩産材の利用は、健全な森林の維持に寄与するだけでなく、輸送による二酸化炭素の削減にもつながることから、みどりの基本計画でも記載しています。

里山に関すること

	意見の概要	市の考え方
1	八王子市には多くの里山が有り、活用しなければ宝の持ち腐れ。その里山を管理、活用して、日本一の里山にするために「里山モデル地区」を設置すべき。	里山は水源かん養や生物多様性の保全など様々な機能があり、本市を代表する自然的・文化的景観と考えています。本計画のリーディング事業では、市を代表する里山である上川の里を、里山の保全や活用モデルとなる取組を推進するシンボルとして位置づけています。
2	市が里山を活性化するために、里山活動団体と企業と学校との調整を協力的に進めていくべき。	里山の有効活用には、市民や事業者、教育機関などとの連携が必要であると考えております。現在、本市ではNPOや事業者などとの協働により里山の保全活用を図っていますが、ご意見を参考に、事業者や教育機関などとのさらなる協働の推進を検討していく考えです。

環境教育に関すること

	意見の概要	市の考え方
1	環境教育の推進について、特に学校内での学習時間の配分との兼ね合いがあり、教育管理担当部署とのより一層の連携が必要と思われる。	本計画に則り、幼稚園や児童館など子どもに関わる部署との連携の仕組みづくりを図っていきますが、より効果的な環境教育のためには、学校ではできない体験を重視した環境教育が重要とも考えております。そのため、今後は市民団体、NPO、事業者など、様々な団体と連携しながら環境教育の推進に取り組んでいく考えです。

協働・連携に関すること

	意見の概要	市の考え方
1	地域の交流のためになるものが多くあると感じた。ただし、大学生が携われるプログラムが少ないと思った。八王子には多くの大学があるため、他大学と交流しながら、自然をより感じられ、地域に貢献するものがあればより良いのではと思う。	本市には21の大学などがある学園都市であり、その特徴を活かすため、学生がみどりに関われる取組が必要と考えています。ご意見を参考に、大学ボランティアセンターなどとの連携を通じた活動の検討に取り組む考えです。

生物多様性に関すること

	意見の概要	市の考え方
1	<p>みどりの量にもまして質の向上をめざす施策を進めるとしている点は評価することができる。みどりの質をはかる指標のひとつは多様な自然環境において示される生物多様性。そのなかでも地域に固有で希少な生物種は、把握と保全には特段の注意をはらうべき。このような施策の基盤を支えるのは、科学的な調査の実施とその継続。とりわけ地域に固有で希少な種の個体数の推移とそれを取りまく生態系の姿を調査することは重要。その結果から導出される保全策の実施を市が優先度高く取り組むことが求められます。</p>	<p>生物多様性の確保や外来生物対策については、本市としてもその重要性を認識しており、今後の課題であると考えています。「みどりの質」を語るうえでも欠かせない取組となりますので、今回のみどりの基本計画改定を一つの契機として、関連計画と連携しながら、生物多様性地域戦略なども含めた中で検討し、次のステップへの足掛かりとしたいと考えています。頂いたご意見については今後の参考とさせていただきます。</p>